

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立赤松小学校

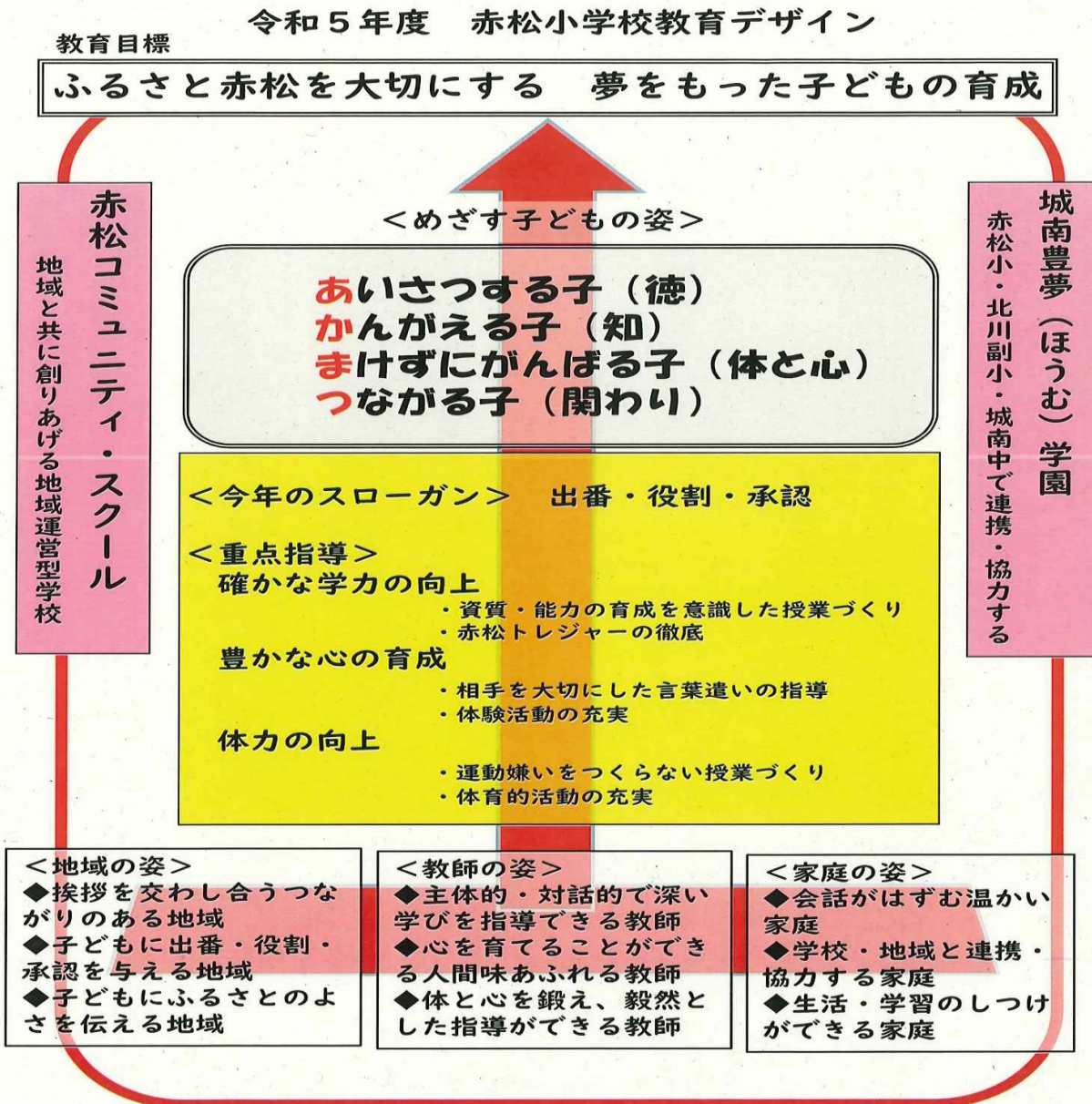
校長名 浅井 慎司

# 令和5年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

記

## 1. 学校の教育目標



## 2. 本校の教育の特色

### ■学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる「赤松コミュニティ・スクール」

- ・平成19年度から学校運営協議会を設置し、地域や保護者のニーズを反映させた教育目標・経営方針・教育課程等の審議を行っている。
- ・教育ボランティア（登録者140名以上）による9つのコミュニティを組織し、教育活動への様々な支援・協力を受けている。
- ・平成21年度から北川副小学校、城南中学校とともに「城南校区コミュニティ・スクール（城南豊夢学園）」を組織し、小小連携、小中連携を進めている。



### ■よき伝統「名に負う赤松」の継承と新生赤松の創造

- ・総合的な学習を通して、地域の人・もの・文化・歴史等を学び、赤松校区のすばらしさを実感させている。
- ・時代に即した授業改善→主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。
- ・子どもの実態に応じた授業改善→授業のユニバーサルデザインでどの子もわかる授業を目指している。



### ■ICT 機器やオープンな学習室等を活用して展開する柔軟な教育活動

- ・ICT 機器（全教室の電子黒板とタブレットパソコン）を活用した授業とともに少人数授業やTT 授業を推進している。
- ・縦割り活動・学年活動・読み聞かせ等、多くの人とのつながりができる創意工夫した活動を通して、協力する大切さ、思いやりの心を育てている。

### ■「SDGs」への取り組み

- ・ISO キックオフ宣言を委員会で発表したり、掲示したりして意識化を図り、節電や節水、ゴミの分別などに全校で取り組むとともに、毎週学級で評価している。
- ・校内研究で取り組んでいる社会科の学習では、「SDGs」を単元構成にキーワードとして取り組むことを共通理解している。また、自分たちにできることを考え、地域に発信することを学習のゴールとするような単元を継続して仕組むことにした。



## 3. 教育計画

### (1) 本年度の教育の重点

#### ■学力・授業力の向上 知

- 校内研究・・・主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり
- レインボー作戦を行い、基本的な生活習慣・学習態度の定着を図る
- タブレット学習の実施による基礎・基本の定着と協働的な学びの実施
- 赤松トレジャーに基づく、全校統一した学習習慣の形成
- 社会に開かれた教育課程の推進、地域やコミュニティと連携した授業の推進

#### ■心の教育の充実・・・いい顔 いい声 いい心 徳

- 「あいさつがいっぱいの学校」「みんなが笑顔になれることばづかい」の徹底を図る
- 校内および地域でのあいさつレベル5をめざす取り組み
- 場に応じた丁寧な言葉遣い、相手を思いやる言葉遣い、友達への「さん」づけの推奨
- 校内の整理整頓と無言そうじの励行
- 道徳や特別活動の充実

○教育相談体制の整備と児童理解

■たくましい心身の育成 **体**

○年間を通した外遊びの奨励(マラソン・なわとび等)

○委員会主催で行う縦割り班対抗の活動やスポーツフェスタの開催(スポーツチャレンジ等)

■コミュニティ・スクールの推進 …地域とともにある学校づくりの推進

○積極的な情報収集と発信(月1回コミュニティ・スクール通信作成 等)

○学校から地域へ、地域から学校への、絆の広がりと深まり

○城南校区コミュニティ・スクール(城南豊夢学園)の連携・協力

○教職員、保護者のコミュニティ活動への参画意識の向上

## (2) 佐賀市の特色ある取組について

### ① 幼保こ・小・中連携の取組

《重点項目》

◆「安心感をもち、意欲的に学ぶ子ども」の育成を目指した幼稚園・保育園・こども園との連携の強化

◆中1ギャップ解消のための取組

《具体的施策》

#### ① 幼保こ・小連携

○入学に対して期待をもてるよう、1年生との交流等、子ども同士の交流を実施したり、学校見学を行ったりする。

○相互理解を図るため、校区内の幼稚園、保育園との連絡会や研修会を年2回程度開催する。

○就学前の児童の実態を把握するため、保育幼稚園課からの就学先調査の情報をもとに幼稚園、保育園への訪問・情報収集・参観を行う。

○安心感をもち、意欲的に学習できるようなスタートカリキュラムを編成し、「えがおわくわく」カリキュラムを活用しながら、接続期の指導を工夫する。

○保護者の不安を減少させるため、新入学児保護者説明会で町区別グループ協議を設定する。

#### ② 小小連携・小中連携

○中学校進学への不安解消とスムーズな連結のため、城南豊夢学園構想の中で以下のような取組を行う。

<児童生徒>

・2回の「城南ドリームスクール」の実施(①授業体験、②部活体験、小小連携、入学説明会)

・「中学校出前あいさつ運動」(各学期)

・「城南豊夢学園クリーン大作戦」(11月)

・「豊夢ワーク週間」(11月、2月)

<教師>

・城南中学校・北川副小学校との三校合同研修会(年2回)

・不登校防止対策(教育支援シートの活用、特別支援教育の充実)

・学力向上対策(家庭学習の手引きの共通化(児童・生徒のノートの共有)「学びの城南スタイル」の共有化)

・配慮を要する児童の情報収集・意見交換会(5月・2月・3月)



## ②「いじめ・いのちを考える日」の取組

### 《重点項目》

◆生徒指導、道徳、特別活動、人権・同和教育、教育相談の連携による「ことば遣い」の指導の充実

### 《具体的施策》

- 「ことば遣い」に関わる生活目標のある月に、ぬくもりタイムでも「ことば遣い」の指導を行う。
- 場に応じて友達を「さん」づけで呼ぶことを推奨する。「相手を大切にしている」というアクションであることを意識させ、職員全体で指導をしていく。
- 道徳科の年間計画に「ことば(ぽかぽかことば、ちくちくことばなど)」についての指導を位置づける。
- 「ぬくもりタイム」の充実を図る。
  - ・原則として毎月一回の朝(8:15~8:30)の時間に設定。
  - ・講話や全校集会などの年間計画を作成して実施し、自分も友だちも大切にしようとする心を育てる時間にする。
  - ・テーマは人権や平和、生命、健康など本校の実態に応じた視点について取り上げ、幅広く考えさせる。
- 「〇月のこころ」、アンケートを毎月実施し、児童理解やいじめの早期発見につとめる。ファイリングして、継続的に観察・対応にあたる。
- 毎学期の始業式に「いじめ0宣言」を行い、いじめ防止の意識を高める
- 教育相談週間【ひだまりタイム】を実施し、いじめへの早期発見、未然防止に努める。
  - ・年度に一度、二週間程度の期間で朝の時間に設置。
  - ・「心のアンケート」を基に、学級の児童が日頃どんなことに悩んだり、困り感を抱えたりしているかを把握する。早めに対応することで、いじめや不登校などを未然に防止し、児童の快適な学校生活に繋げる。
  - ・すぐに対処が必要な児童には、迅速な対応を行う。
- スクールカウンセラーとの相談の場を設置する。
  - ・月に一回の頻度で実施。
  - ・気になる児童がいる場合、保護者との連絡をとりながら、スクールカウンセラーとの面談に繋げる。
- すべての児童への「いじめは許されない」ことの指導を行う。
  - ・学校教育全体を通して、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にする態度を育成し、いじめの未然防止に努める。
  - ・児童や保護者からのいじめの訴え、また、その兆候等の危険信号は、どんな些細なものであっても真剣に受け止め、速やかに教職員相互において情報共有するなどにより、適切かつ迅速な対応をとる。

## ③市民性を育む取組

### 《重点項目》

◆公民館や地域との連携強化

### 《具体的施策》

- コミュニティ・スクールを活用するために、総合的な学習の時間や特別活動、社会科等の年間計画の中で各学年の重点単元を決め、地域の人・もの・文化・歴史を学ばせる。
- 校区内のボランティア活動に取り組んだり、校区内の様々な行事(鯨の門祭、校区民運動会、赤松文化まつり、餅つき大会等)やPTA行事(親子ディキャンプ、除草作業等)に参加したりすることで地域の人々との交流を図るとともに、進んで地域へ貢献することの喜びを味わわせる。



- 地域諸団体の会合、地域行事、公民館活動、学校公開等の場で、育みたい資質・能力を地域の方へ伝えるとともに、地域の情報を収集し相互の関係を密にする。
- 「ふるさと学習支援事業」を活用し、体験活動・見学活動を通して、佐賀市のよさを学ぶ。
- 赤松まちづくり協議会と連携し、地域行事へ積極的に参加するとともに、安心して暮らし続けることができる町づくりについて学ぶ取組を年間計画に位置付ける。



### (3) 指導の重点7項目

#### ①「いのち」を守る教育の充実(安心・安全な学校づくり)

《重点項目》

##### A 心の教育の充実

- ◆本校における道徳教育の全体計画及び別葉について授業実践を基に学校全体及び各学年で見直し、道徳の授業を要とした道徳教育の充実に努める。
- ◆「ふれあい道徳」の教育課程への位置づけ方を考え、地域や家庭と連携した特別の教科道徳の授業実践ができるように工夫と改善とを加え、継続していく。
- ◆「生命尊重」の指導は、道徳の授業および学校教育活動全体を通して行う道徳教育の重点指導内容とする。発達段階に応じて行い、地域間交流や世代間交流、ボランティア活動、自然体験活動、生活体験活動等あらゆる機会を捉えて実践していく。

##### B 安全教育の充実

- ◆年4回の避難訓練(風水害・不審者対応・火災・地震津波)を実施し、自分の命を守るための行動がとれるように、敏速かつ安全な避難待機の仕方を学ばせるようにする。
- ◆社会科の第4学年や第5学年の「防災」の教材を使って、どのようにして防災の取組がなされているのか、自分ができることは何かを考えさせるような授業を実践する。
- ◆緊急の事案が発生した場合には、危機管理マニュアルに則り、迅速かつ正確な対応を組織として行うことができるように、周知徹底に努めるようにする。

#### ②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(学力向上)

《全国学力・学習状況調査(以下全国調査)、佐賀県学習状況調査(以下県調査)の結果から》

本校平均は、全国調査では、3教科(国語、算数、理科)のすべての観点で、全国平均、県平均を上回っていた。

県調査でもすべての学年・教科で佐賀県平均を上回った。また、国語では、すべての観点で「おおむね達成」となった。しかし、第4学年算数、第5学年算数、第6学年社会の「思考・判断・表現」で「おおむね達成」に届かなかった。

そこで、各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出したりして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実に努める。

## 《授業改善に向けた具体的取り組み》

### ○「主体的な学び」の実現

- ・TT や少人数によるきめ細かな指導の充実を図る。
- ・めあてを明確にし、学習に見通しをもたせる。
- ・学習の最後に振り返りを設定し、学習したことを次につなげられるようにする。
- ・タブレット端末等を用いて、スキル学習を実施する。

### ○「対話的な学び」の実現

- ・指導過程の中に、協働で学び合う活動を効果的に設定する。
- ・多様な考え方を大切に授業を展開する。
- ・授業に地域の人材を活用する。

### ○「深い学び」の実現

- ・タブレット端末や電子黒板等、ICT 機器を利活用したわかる授業、個別最適な学びと共働的な学びを結びつける授業を実施する。
- ・情報を整理したり、精査したりしながら考えを深めたり、問題を見出したりする場面を単元等に応じて設定する。

### ○校内研修の充実

- ・コミュニティ等の外部機関と連携しながら授業づくりを行っていく。その際に、意見文を提案し、コメントをもらうなどして、意見をより高めさせるようにする。
- ・教員同士が互いの授業を参観し合うことで、授業実践を高められるようにする。

## 《家庭学習充実にに向けた取組》

- 各教科等における学びの振り返りを進め、「何を学ぶのか」「学びをどう生かすのか」という意識を児童にもたせ、自主学習の奨励を行い、学力向上を図る。
- 「(赤松)レインボー作戦」と名付けた生活・学習習慣の定着をはじめとした家庭・地域と連携した基本的な生活・学習習慣の定着を図る。

## ③特別支援教育の充実

### 《重点項目》

- ◆全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し実践する。
- ◆児童の実態に応じた自立活動の実施
- ◆教室に入れない児童への対応の体系化
- ◆ユニバーサルデザインの共有化

### 《具体的施策》

- インクルーシブ教育についての考え方や合理的配慮について共通理解する。
- ユニバーサルデザインを共有し、全クラスで環境面、人的環境面でのユニバーサルデザインに取り組む。
- 特別支援教育コーディネーターを3名置き、「見守りたい子」を一元的に把握した上で、効率的な関わり方をマネジメントする。
- 生徒指導上の課題や教育相談的な課題が起きたときには、即座に対応できるよう、毎週の職員連絡会の中で共通理解を図る。「徳の部会」で対応策を検討し、「子ども支援全体会」を月に1回程度開催し、支援を要する児童について共通理解を計る。
- 教室に入れないことが長期化した児童は、いつ、どこで、誰が支援するか等、担任、その他の支援者の役割分担を明確にする。
- 必要に応じてケース会議や支援会議を開き、環境整備や合理的配慮や適切な支援のあり方などについて話し



合っていく。子どもの願い・親の願いをふまえた支援体制について検討していく。

- 診断名をもつ児童については、保護者の承諾を得た上で、情報交換を確実にし、共に個別の教育支援計画を作成する。個別の教育支援計画、個別の指導計画を、子供の実態把握と適切な目標設定、有効な手立ての共有、引継ぎ資料として、活用する。
- 「ぬくもりタイム」、「交流学級のみんなへ」等を活用し、特別支援学級の児童の理解や児童同士の理解を深め、繋がり合うことのできる機会を増やす。また、保護者の理解啓発のための取り組みを行う。
- 個別の指導計画を活用しながら、短期目標や長期目標を設定し、児童の実態や成長に合わせた自立活動を実施する。

## ④生活(生徒)指導の充実

### 《重点項目》

- ◆「あいさつがいっぱいの学校」「みんなが笑顔になれる言葉づかい」の徹底を図る。
- ◆「出番・役割・承認運動」に取り組み、自己肯定感の向上を図る。
- ◆毎月の生活のめあての達成に積極的に取り組み、基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ◆様々な教育活動において児童が適切な人間関係を形成するように支援し、いじめの未然防止に努める。
- ◆不登校、保健室登校等の児童を組織的に支援する。

### 《具体的施策》

- あいさつの5つのレベルを示し、年間を通して指導をしていく。年に3回、学期のはじめに特化して指導する。児童が自発的に取り組むことができるようなレベルアップへの手立てを提案し、児童が進んで実行できるよう支援していく。
- 「みんなが笑顔になれる言葉づかい」ができていない児童を、朝会で承認する。また、言葉に重点をおいた月に、ぬくもりタイムと連携して、適切な言葉づかいについての指導を行う。
- 児童会活動や特別活動、各種行事において、「出番・役割・承認運動」に積極的に取り組み、児童の責任感や有用感を培い、自信を育てる。
- 生活のきまり「ふたばっこよい子のきまり」を児童、家庭に配布し、学校、家庭で、きまりを守って生活する態度を育てる。
- 各月ごとの生活のきまりを明確に示し、生徒指導部会において達成のための具体的な手立てを検討し提案する。
- 職員全員が共通理解のもとに指導ができるように、生徒指導部会において指導のポイントを明確化し、指導内容を提案する。
- 授業参観、学校公開等を活用し、携帯やスマホの適切な使い方等、情報モラルに関する問題を親子で一緒に考えていく場を設定する。
- OPTA や地域、家庭との連携を図りながら自転車乗車時のヘルメット着用率向上を図る。
- 徳の部会で気になる児童の情報を共有することにより、学校全体でいじめや問題行動の早期発見、早期対応に努める。また、定期的に自由記述のアンケートを行い、児童理解に努める。
- 道徳教育や特別活動の年間カリキュラムと連動させながら、心の教育の充実を図る。
- 不登校、保健室登校等の児童への対応として、毎月1回子ども支援会議を開き、児童の現状を担任や教育相談担当等、全職員が把握し、改善に努める。必要に応じて教育相談部会やケース会議を開催する。また、担任や別室対応支援員が中心となり、相談室や保健室での学習を支援し、学力の保障をする。
- 不登校傾向の児童に対しては、毎月来校されるスクールカウンセラーとのカウンセリングを勧める。完全不登校の児童に対しては、スクールソーシャルワーカーが週1回訪問支援を行う。また、サポート相談員の活用や、くすの実や医療機関等との連携を図り、改善に努める。

## ⑤人権・同和教育の充実



### 《重点項目》

- ◆豊かな人間性と望ましい人間関係に支えられた学校・学級づくりを推進する。
- ◆特別支援学級児童との交流や異学年活動を通し、児童相互の理解を図り、人権意識を高める。
- ◆多様性を認め合う、学級・学校風土を創っていく。

### 《具体的施策》

#### ○ぬくもりタイムの内容の充実

※多様な性・生き方への理解を深めるようなぬくもりタイムの実施。「言葉は心」をより具体的な内容にし、多様な人権課題について考える機会とする。

※平和を大切に考える考え方を広めるような平和集会の実施。

※人権の大切さを訴える人権集会の実施。

#### ○ふたば学級、あおぞら学級、学級との交流

- ・児童相互の理解を図り、支持的風土作りに取り組む。

#### ○児童会活動との関わり

- ・なかよし活動・なかよし掃除を中心とした異学年交流をすすめる。集会委員と共同で平和集会を行う。

○ぬくもりタイムと道徳との連携を図り、人権・同和教育からの視点の授業を計画的に行う。多様な人権課題について、発達段階に応じて取り扱う。

#### ○職員研修の充実

- ・年間一人一研修体制を整え、校外での各種研修会に参加して、職員の人権意識を高める。
- ・長期休業などに外部講師を招き、校内研修会を実施することで、全職員が共通理解して、人権・同和教育を推進する。

## ⑥グローバル時代に対応する外国語教育の充実

### 《重点項目》

- ◆コミュニケーション能力・他者への配慮(友達・先生・外国の文化等)を育む外国語・外国語活動の充実

### 《具体的方策》

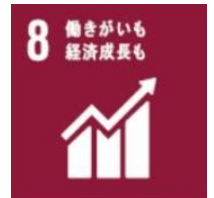
○ALT やグローバルコミュニティとの活動を設定し、すべての児童(低学年も含めて)が外国語の言語や文化について体験的に学べるようにする。

○教材、教具、授業の展開例等の充実を図るとともにデータや道具等を保管し、職員間で共有できるようにする。

○児童が「やってみたい!」「伝えたい! 聞いてみたい!」と思える様な、目的・場面・状況を明確にした言語活動を設定する。その際、ALTやグローバルコミュニティの人材を活用し、コミュニケーションの必然性のある場面を設定し、単元全体を組み立てていく。

○重要表現などに慣れ親しむことに重点を置いて十分に活動をしたうえで、書く活動も行い、中学校へとつなげるようにする。

○中学年における外国語活動では、授業の中で身近なテーマについて教師の「Small talk」を聞いたり、自分のことについて話したりする活動を繰り返して行うことで、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」の音声面を中心としたコミュニケーションを図る素地を育てていることを念頭に置き、外国語活動から教科外国語科へのなめらかな連結を図ることができるように指導に当たる。





## ⑦情報教育の充実

《重点項目》

◆ICT 機器を活用した情報活用能力の育成

《具体的施策》

- GIGA スクール構想に備え、ICT 支援員と連携して、ICT 利活用に関する研修を行い、効果的な活用方法を学校全体で共有し、職員の能力を高める。
- 各教科等の内容に関連づけて、タブレット PC や電子黒板を活用した授業実践を行い、児童の情報リテラシーの育成を図る。
- 毎週金曜日の朝の時間にタブレットPCを活用したスキル学習を実施する。
- 年間指導計画をもとに情報モラル教育を行い、発達段階に応じて計画的に指導を進めていく。
- 情報モラル教育について、特別の教科道徳や各教科等との関連を図る。また、授業参観等を利用して PTA、地域住民との連携を図り、情報モラル教育の啓発を行う。
- プログラミングの体験を各教科等や学校の裁量の時間で、年間指導計画をもとに計画的に指導を進めていく。特に、5年生の算数、6年生の理科では履修漏れがないように注意する。

## (4)各教科等





各教科	<p>《育成すべき資質・能力》</p> <p>◆基礎的・基本的な内容の定着と表現力・思考力、学びに向かう力の育成</p> <p>《指導の重点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のめあてを必ず明確にし、授業に見通しをもたせることを大切にする。終盤のまとめと振り返りを徹底し、今後の学習につなげる。</li> <li>○ユニバーサルデザインを意識した教室環境や授業づくりをし、すべての児童の学力向上を図る。</li> <li>○聞くこと(先生の話、友達の考えなど)を大切に指導する。</li> <li>○ICTを活用し、情報収集や表現活動に取り組みせ、児童の調べる力や表現する力を高める。</li> <li>○国語…書く活動を多く取り入れ、読書活動を推進する。</li> <li>○社会…社会的事象を理解させ、資料を活用しながら社会的な問題に対して、友達との意見交流を通して自分なりの意見をもたせ、よりよい社会のあり方について考えさせるようにする。意見文や提案文を作成させ、地域の方等に提案し、学びを深めさせるようにする。</li> <li>○算数…担任と指導法改善担当者が連携を取りながら児童の実態の把握に努め、TT 授業や少人数授業が可能な学年では習熟度別授業、課題別授業を取り入れ、すべての児童がわかる授業をめざす。</li> <li>○理科…理科の見方・考え方を大切にする。観察や実験においては、予想を大事にするとともに、実験方法や観察の仕方に見通しをもって活動に取り組ませる。</li> <li>○音楽…音楽表現するための技能を身につけ、音楽の楽しさについて活動を通して味わう経験させる。</li> <li>○図工…造形的な見方・考え方を働かせ、楽しく豊かな生活を創り出そうという意欲を育てる。</li> <li>○家庭…日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する活動を大切にし、よりよい家庭生活につなげる。</li> <li>○体育…学習カードを活用しながら、児童がめあてをもって運動を行う。その過程の中で、仲間と関</li> </ul>
-----	--



	<p>わりながら達成感や克服を経験し、運動をする楽しさや喜びを味わわせるようにする。</p> <p>○外国語…まずは慣れ親しむことに重点を置き、十分な慣れ親しむ活動を行う。児童の実態、他教科との関連を図りながら単元や授業を組み立てて、5つの言語領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育てていく。</p>
<p>特別の 教科 道徳</p>	<p>《重点項目》</p> <p>◆佐賀市の目指す子ども像「倫理観・社会常識」の育成に対応した「親切、思いやり」「規則の尊重」「善悪の判断、自律、自由と責任」「礼儀」「勤労、公共の精神」と学校課題に対応した「生命の尊さ」「個性の伸長」「感謝」「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を重点内容項目に定め、いじめ問題の早期解決を念頭に取り組む。</p> <p>《具体的施策》</p> <p>○R4年度の道徳教育の全体計画及び別業を見直し、R5年度の道徳教育全体計画及び別様をさらに充実させていく。その際、学校・地域行事、他教科、学年の特性等を踏まえ学校全体・各学年で機会あるごと(各学期)に再検討する。</p> <p>○道徳教育の要は、道徳科の授業実践と捉え「考え、議論する」道徳科の授業実践に工夫を加えていく。年間 35 時間以上の授業時数を確保するとともに、職員研修の機会を設ける。</p> <p>○「ふれあい道徳」の授業実践を継続し、保護者や地域の方に本校の道徳授業の取組を紹介する。特別の教科道徳の授業について、そのねらいや授業の様子を適宜、学級通信等で紹介し、保護者や地域に道徳教育への理解と協力を求める。</p> <p>○児童の授業中の発言やふりかえり等のポートフォリオを蓄積・活用しながら、児童の考えの変化や心の成長を見取ることができるようにする。</p>
<p>外国語 活動の 時間 (3、4年生)</p>	<p>《重点項目》</p> <p>◆中学年において、児童が身近で簡単な語句や基本的な表現を使いながら、英語に慣れ親しむ活動を積極的に仕組む。</p> <p>《具体的方策》</p> <p>○中学年では、「Let's try」を児童の実態に応じて活用する。</p> <p>○授業の中では、身近なテーマについて教師の「Small talk」を聞いたり、自分のことについて話したりする活動を繰り返して行うことで、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」の音声面を中心としたコミュニケーションを図る素地を育て、高学年につないでいく。</p> <p>○児童が「やってみたい!」「つたえたい!聞いてみたい!」と思えるような目的・場面・状況を明確にした言語活動を設定する。その際、ALT やグローバルコミュニティの人材を活用し、コミュニケーションの必然性のある場面を設定し、単元全体を組み立てていく。</p> <p>○教材、教具、授業の展開例などの充実を図るとともに、データや教材・教具を保管し、職員間で共有できるようにする。</p>
<p>総合的な 学習の 時間</p>	<p>《育成すべき資質・能力》</p> <p>◆具体的な資質・能力については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身につけられるようにする。</p> <p>《重点項目》</p> <p>◆地域の人・もの・文化・歴史を生かす「きょうど科」カリキュラムの実施</p> <p>《具体的施策》</p> <p>○ねらい:コミュニティの方々の協力を得ながら、赤松のまちの文化や史跡、建物、人と関わること</p>



	<p>で地域のよさや自分の将来について考え、ふるさと赤松を大切にする気持ちや態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年…地域の公共施設や UD 等について調べたり、コミュニティをはじめとする地域在住の方々と触れ合ったりすることで、地域のよさや優しさを感じとらせる。(地域にある公共施設やそこで働く人を調べる。また、ユニバーサルデザインやコミュニティについて調べ発表する。講話や体験活動などを通して、福祉について学ぶ。)</li> <li>・第4学年…地域環境について調べたり守ったりする活動や福祉についての理解を深める学習を通して、郷土やそこに暮らす人々を大切にする気持ちを育てる。(お堀の周辺の木々や、お堀の中の環境に直に触れる体験活動を行い、地域の環境問題や、自然との共生の在り方について考える。お堀の環境についての講話を環境コミュニティの方にさせていただき、地域環境について考えるきっかけとする。)</li> <li>・第5学年…地域に関わりのある歴史的な偉人について調べ、郷土を誇りに思う気持ちを育てる。(赤松校区にある偉人や歴史的な建造物について、地域在住の方や、コミュニティの方にゲストティーチャーとして話をさせていただき、地域の偉人などについて興味をもつきっかけを作り、調べ学習を行う。)</li> <li>・第6学年…わが国の戦争と平和の歴史や、地域の産業に関わる人々の知恵や苦勞を知り、これからの自分の将来について考えさせる。(平和について考える。コミュニティを生かしたキャリア教育活動を行う。地域在住の方やコミュニティの方の中から様々な職業に携わる方々を招き、講話をしていただき、将来なりたい自分の参考とする学習課程を設定する。)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土への誇りと愛着を育てるため、ふるさと学習支援事業を活用する。(4・6年)</li> <li>○ICT 機器を活用した調べ学習、発表会を実施し、情報の収集力、発信力を伸ばす。</li> <li>○「情報化の進展と、生活や社会の変化」を探究課題として学習する場面を設定する。</li> <li>○「街の魅力と情報技術」を探究課題として学習する場面を設定する。</li> <li>○「情報技術を生かした生産や人の手によるものづくり」を探究課題として学習する場を設定する。</li> </ul>
<p>特別活動 (学級活動)</p>	<p>《重点項目》</p> <p>◆一人一人が生き生きと学級や学校生活を創り出すための学級活動の充実</p> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間関係形成力、社会参画力、自己実現力を育てるためのカリキュラムの作成</li> <li>○一人一人が学級の一員としての自覚をもち、学級や学校生活の充実を目指す活動に取り組むことができるように、学級活動の充実を図る。</li> <li>○学級活動(3)を計画的に実施する。また、キャリアパスポートを活用しながら、発達段階を意識した自己実現に向かう子供の育成を目指し、自らのよさや可能性を生かして努力する活動を仕組んでいく。</li> <li>○年間を通じて児童による「あいさつ運動」を実施する。</li> <li>○異学年活動「なかよし活動」を計画的に行う。体の部と連携を図り、異学年活動を通して全校児童の人間関係づくりにつとめる。</li> <li>○コミュニティを活用したクラブ活動の充実を図る。</li> <li>○食育に関する授業を系統的に行う。</li> </ul>

<p>キャリア教育</p>	<p>◆キャリア教育の意義についての職員の理解推進 ◆各学年を通じたキャリア教育の計画立案</p> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育で育てる4つの能力(人間関係形成能力、将来設計能力、情報活用能力、意思決定能力)を踏まえた、各学年指導計画を作成する。</li> <li>○中学進学に向け児童・保護者に対して進路指導を行う。</li> <li>○コミュニティを生かしたキャリア教育として、6年生で地域の人材を生かした「職業人インタビュー」を行い、自分の将来や生き方について考える。</li> <li>○道徳や特別活動、総合的な学習の時間等を通して「なりたい自分」を掲げさせるような教育活動を意図的・計画的に仕組み、具体的な行動に向かわせる。</li> <li>○「キャリアパスポート」については、指導計画に基づき、具体的な視点を立て、見通しをもって将来につながるもの、自己実現につながるものを年間3～5枚程度残していくことを共通理解して実践していく。</li> </ul>	
<p>環境教育</p>	<p>《重点項目》</p> <p>◆「環境にやさしい学校づくり」のために、全校の環境意識向上を図る。</p> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初に環境 ISO キックオフ宣言をおこない、職員及び児童の環境保全に対する意識を高める。</li> <li>○委員会活動と連携し、児童の自主的活動を通して学校全体の環境保全への意識を高める。</li> <li>○全校の環境チェックの体制を整え、環境意識向上を図る。</li> <li>○リサイクルセンターを充実させる。</li> <li>○節電・節水・リサイクルを全職員へ呼びかけ、環境教育を発展させる。</li> </ul>	 
<p>読書指導</p>	<p>《重点項目》</p> <p>◆読書センター・学習情報センターとしての機能の充実</p> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○読書タイム、赤ずきんの会コミュニティによる読み聞かせの場や時間の設定、児童の興味をひく図書を紹介や読み聞かせ等を工夫して、一人一人の読書量の増加を図り、読書を通して、豊かな語彙と感性を育てる。</li> <li>○知の部と連携し、「家読」(親子読書)や家庭学習での読書を推進する。</li> <li>○各学校図書館や市立図書館との「相互貸借制度」を生かし、資源の効率的な活用を推進する。また、総合的な学習の時間や各教科と関連付けて計画的に図書館を活用するなど、情報活用能力を養う。</li> <li>○「読書 50 選」「続 50 選」などを利用したり、学年に応じた選書について考えさせたりして、目標をもって読書活動に取り組ませる。</li> <li>○図書室の環境整備に努めたり、読書週間に合わせた、年に2回の図書館まつりを開催したりして、読書量の少ない児童でも図書館に通いやすい環境作りを行う。</li> </ul>	
<p>食に関する教育</p>	<p>《重点項目》</p> <p>◆健康で豊かな食生活や食習慣の育成</p> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食生活や食習慣について、各学級で、担任と栄養教諭のTTによる指導を行う。</li> </ul>	



	<p>○給食に関する指導は「給食トレジャー」として、全校で同じ取り組みを行う。</p> <p>○「佐賀県食育強化月間(6月と11月)」は、朝食について、レインボー週間を活用して取り組みを行う。児童会は1月の給食週間に取り組みを行う。</p> <p>○給食委員会の児童の企画により、栄養や給食に関するイベントの取り組みを行う。</p>
<p>教育課題への対応</p>	<p><b>【コミュニティ・スクールの継続・充実】</b></p> <p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆コミュニティ同士の連携を目指した取組の工夫</li> <li>◆城南豊夢学園で連携・協力して行う取組の充実</li> </ul> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新しいコミュニティメンバーの加入推進と連絡体制の強化</li> <li>○教職員への研修会の実施や保護者への啓発</li> <li>○城南豊夢学園の連携充実</li> <li>・3つのプロジェクト活動の充実(学力向上PJ、まなざし推進PJ、地域交流PJ)</li> <li>・SDGsの視点を取り入れた教育の推進</li> <li>○まなざし運動、市民性を育む教育の推進</li> <li>・子ども達の地域行事参加と地域貢献の奨励</li> <li>・市民性を育む教育の理解促進</li> </ul> <p><b>【危機管理】</b></p> <p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全で安心して過ごせる学校づくり</li> </ul> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○より実践的な視点で危機管理マニュアルを見直す。</li> <li>○児童の安全・防犯意識を高めるため、年4回の総合防災訓練(風水害時、不審者侵入時、火災時、地震津波時)を実施する。風水害避難訓練は保護者との連携で行う。状況に応じた的確な判断の下に自らの安全を確保するための行動ができるようにするために防災教育の視点にたった事前・事後指導を行う。</li> <li>○大規模災害による学校教室への避難を想定して、受け入れ時の体制や職員の対応についてマニュアルを整備する。</li> <li>○安全コミュニティを活用した交通安全教室を実施し、歩行指導、自転車の走行指導を行う。</li> <li>○教職員による校外巡回指導、地域人材を活用した交通安全指導を展開し、交通安全指導と防犯指導を強化する。</li> </ul> <p><b>【学校保健】</b></p> <p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どもの心身の健康問題に対する支援の充実</li> </ul> <p>《具体的施策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健指導(感染症予防等)、保健学習の充実(養護教諭 TT、集団指導、ICT 保健資料の作成、児童保健委員会の活用、保健室来室時の個別指導)</li> <li>○児童が安心して来室できる保健室づくりに努める。</li> <li>○保護者の理解と協力をうながすため、保健室から情報の発信に努める。</li> <li>○児童の心身の異常に早期に対応するため、職員や各関係機関と連携を図る。</li> </ul> <div data-bbox="1289 1868 1460 2033" style="text-align: right;"> </div>